



三島診療所からのお知らせ

新しい所長に谷平哲哉さん

平成16年からの2年間、三島地区の地域医療にご尽力いただいた兵頭真先生の後任として、谷平哲哉先生が6月1日に着任しました。

谷平先生は愛南町（旧一本松町）出身の32歳。地域医療を担う医師として、地域に根ざした医療の実践が期待されています。今後ともよろしくお願ひします。



I ターン者インタビュー

後藤 敏彦さん（59歳）

愛知県名古屋市出身。

今年の4月から父野川へ移住。

水稲と野菜約50種類を栽培している。

きっかけは福岡正信さんの「自然農法」という本に出会ってー

今年の4月から鬼北町父野川に移り住んだ後藤敏彦さん。都会から田舎へ、会社勤めから農業へ。新しい生活をスタートされた後藤さんにお話を伺いました。

「きっかけは、愛媛県出身の福岡正信さんの自然農法という本を読んで農業に興味を持ちました。30代で将来は自然豊かな場所でも農業をしたいと考えるようになり「したね。」しかし、当時は会社勤めで仕事に追われる毎日。また、都会育ちの家族にはすんなりと理解してもらえなかつたという。

「妻の理解を得るためにキャンプ用品を全て揃えて、いろんな場所にキャンプへ出かけたり努力していました。」と当時の様子を振り返る。子どもが独立したのを機に、57歳で勤めていた会社を早期退職。昨年、農業のノウハウを学ぶため、大洲市肱川町にある皆農塾で1年間研修生活を送った。

「鬼北町へは、皆農塾の塾長がこちらの方と知り合いで、農地と住居を紹介してもらいました。住居も農地も予想以上に広いですね。もう少し狭くても十分なんです。ゆったりと使っています。」

住んでみての感想は「自然も水もきれいで、近所の方たちも親切。とてもいいところ。ただ、冬になると雪が1mくらい積もると聞いて困ってます。」と苦笑い。

不便な点については「ある程度分かってきているので。ただ、携帯電話やインターネットの環境があまりよくないですね。農業や趣味などの情報収集にインターネットは欠かせないですから。来年から団塊の世代といわれる人たちが退職しはじめて、田舎での生活を希望する人も少なくないと思えますが、インターネットなどの環境整備は大事でしょうね。」とのこと。

最後これからの夢、やりたいことについて聞くと「手をつけていない休耕地を耕して、蕎麦や大豆を植える予定です。自分が食べる分の稲や野菜の栽培をし、無農薬、手作業を基本とした自然農法を目標にやっていきたいですね。時間があるときには趣味の鮎釣りに出かけて、広見川、肱川、四万十川にも足を伸ばすつもりです。やることはたくさんありますが、時間に縛られることはありませんから、自分のペースで挑戦していきたいですね。」